

長野県図書館協会

デジタル版 小中学校図書館部会だより

第 139 号 (26 年度)

第 64 回 長野県図書館大会

～学びや暮らしの中に生きる図書館の望ましいあり方を探る～

諏訪支部代表 諏訪市立城北小学校 大蔵 和幸

第 64 回長野県図書館大会が「ことばと心を育てる読書活動」を推進する茅野市で開催されました。茅野市では 1990 年の第 40 回大会以来の開催。今、茅野市は市内全域で読書活動に取り組んでいますので、大会開催にあっても茅野市図書館を事務局にして準備委員会や実行委員会を重ねると共に、開催地企画・開催地計画の分科会準備や運営にも前向きに取り組んでの大会となりました。大会前日には茅野市独自の読書教育研究会も行われ、読書活動についての研修が更に充実しました。



大会基調講演「本と言葉」は、杏林大学教授で言語学者の金田一秀穂先生。日本語研究を始める前の『この 10 冊』の紹介、読書感想文が書けない時刻表や人物辞典・歴史年表ばかり読んでいた自身の体験等から、調べることの大切さについても触れられました。ネット社会で国語辞典を引かなくなり『あいうえお順』が無くなるかもしれないという問題提起等もユーモアあふれ、笑いも絶えない講演で好評でした。講演後の金田一先生は、国宝指定土偶のある『尖石縄文考古館』見学後、国重要文化財指定の『片倉館』に花束を抱えて入られました。その後の足取りはわかりませんが、お送りした車中でのお話は途切れることはなかったことをお伝えしておきます。



午後は永明中学校を主会場にした分科会。「調べ学習の実践」や「司書教諭と学校司書の二人三脚」等をテーマに、実践発表に基づく研究協議・意見交換が進められました。参加された皆さんの学びの会となったことを願っています。

本年度は会場担当者を位置づけての分科会体制、スムーズな運営になっていたでしょうか。また、茅野市民館から徒歩 5 分程の分科会場や同日開催されたそば祭り、参加者の皆さんにご不便をおかけすることはなかったでしょうか。分科会終了後の「お土産は何处で？」のご質問に即答できなかったことをお詫びいたします。図書館教育の充実と共に五感で心豊かにしていくよう努めて参ります。ご参会ありがとうございました。

第 64 回 長野県図書館大会に参加して

茅野市立北山小学校 帯川 淳也

本年度は地元茅野市で図書館大会が開催されました。当日は茅野駅前では新そば祭りが開かれ、午前の会場である茅野市民館前も大変賑やかでした。

午前は茅野市民館において、杏林大学教授金田一秀穂先生より講演を拝聴しました。先生の子どもの時代の読書のお話や、イチローは好きだからがんばれている、読書も同じですと言う言葉に、自分の中にあった読書に対する偏狭な意識を揺さぶられた思いがしました。子どもにその子が好きな本をたっぷり読ませてあげたい。そう強く思いました。

午後は、会場を永明中学校に移して第9分科会「読書指導のあり方」に参加し、飯縄町立牟礼西小学校と長野市立戸隠中学校の実践報告をもとに学ばせていただきました。

牟礼西小学校では、学校全体で「読む力」の向上に取り組まれたことと、読書活動を進める中で一人の児童と学級の変容を紹介していただきました。落ち着きがなく集団に馴染めなかった男の子が、子ども同士の読み聞かせに取り組む中で、次第に自分から本を読むようになり、それと共に落ち着いて学校生活を過ごすようになっていった姿に、読書は人を成長させる力があるのだと感動しました。

また、戸隠中学校では校長先生を先頭に、全職員が一つになってそれぞれの個性を生かしながら読書教育に取り組まれている様子を紹介していただきました。本への興味関心を高め読書へと誘うように工夫された環境作りや活動が実践されており、今後の自校での取組に大いに参考になりました。子どもたちにとっての読書の重要性を再認識するよい機会となりました。発表いただいた両校に感謝いたします。ありがとうございました。

地区学校図書館研究会から

中信地区

10月31日 松本市立波田小学校 松本市立波田中学校

中信地区大会(波田会場)に参加して

松本市立鎌田小学校 上條 ひとみ

波田小学校「秋の言葉を味わおう」の授業で、「私の大好きな秋の風景」を豊かな言葉で表現する5年生に出会いました。「秋」でイメージするお決まりの言葉を安易に使わず、考えて、考えて、仲間と協力しながら、自分のイメージにぴったりと合う言葉を探していました。色、音、匂い、肌ざわり、心つまり五感で感じたことを言葉にしようと懸命に取り組む姿に感心しました。その授業のために集め、展示された沢山の本を拝見して、司書は本の知識を深め、情報検索能力を高め、的確に求められている資料や情報を提供できなければいけないと改めて学ばせていただきました。

講演会では代田みち子先生から、「科学の本から広がる世界」の演題でお話を伺いました。学校図書館に所蔵したい科学のジャンルの本と科学工作の実物等もご紹介いただきました。教えていただいたことを活かして、子どもも大人も知的な好奇心を刺激される本を選書し、科学分野の蔵書も充実させていきたいと思えます。

東信地区図書館教育研究会に参加して

上田市立浦里小学校 丹下 満代

長門小学校6年生の授業では、本の紹介をし合う中で、友だちの読んだ本に大変興味を持ったようでした。言葉だけでなくおすすめのポイントと本を提示して視覚的にも訴える紹介、付箋を利用して感想を伝え合うことなど教室に戻って真似をしたいと思う工夫を教えてくださいました。

赤木かん子さんの講演会では、本といえば物語と考え、子どもたちにも物語を読ませたいと思っていた自分に気づかされました。そして、子どもたちが好んで読む本も世代によって変化していること、今の子どもたちはデジタル放送のようにきれいな画像が当たり前の中で育っているため、本もきれいな画像やビジュアルのものでないと受け付けなくなっていることなども教えてくださいました。その上で、具体的にどのような本がよいかも教えてくださいました。今までのように物語にとらわれず、一人ひとりの子どもたちに合わせて広い視野から本を紹介したいと感じました。

平成26年度 北信地区学校図書館教育研究会を実施して思うこと

発表校 千曲市立治田小学校 中沢 英治

研究授業の発表校に指定していただき、やりがいを感じたり、プレッシャーを感じたりの本校でしたが、研究部会の先生方の機動力により、無事当日を迎えることができました。努力の結晶として示したのは、単元「図書館マップを作ろう～きみたちは、『図書館たんていだん』～」の中で、「気になる本棚からお気に入りの1冊を見つけてブックカードを作って紹介してほしい」という校長先生の指令に応えての活動場面でした。

そして参会者から、こんな感想をいただきました。「好きな物語以外の本にも目を向けさせようとして、初めて手にするような本の内容を大まかにつかませたことは、本の幅を広げるのに効果的だったと思います。自分で調べたり、友だちに紹介されたりして、本の楽しさを知り、自分でも手にとっていくようになるんだろうなと思いました。」本校のねらいを的確につかんでくださっている感想に、本校職員は嬉しさを感じ、自信をもたせていただきました。また私は、図書館教育の必要性はここにあるんだということを再認識しました。また、「もっと時間をかけてやらせたい内容ですね…。」等の感想(課題)もいただき、一番勉強になり、得したのはやっぱり授業者だったかなとも感じています。

講演会は、元NHKアナウンサーで現在、軽井沢朗読館館長の青木裕子さんに「夢を育む声の力・言葉の力」のテーマで話をさせていただきました。「朗読のコツ…、地声で気取らずに読むことを教えてくださいました。普段の声を变えて意気込んでしまうことがあるなあと反省しました。青木さんの朗読には、魅了されました。物語の映像が目に浮かぶようでした。」等の感想を多数いただき、企画した側の充実感ももてました。

「授業研究会の時間が短すぎる」という感想もいただき、今後の課題も見え、図書館教育研究会のあり方を改めて自分に問いました。難しいことで方向性も示せず申し訳ないのですが、次の支部・次の会場校へ引き継ぎたいと思います。